

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401500		
法人名	有限会社春陽		
事業所名	グループホーム福田		
所在地	長崎県諫早市福田町3346番地5		
自己評価作成日	令和 2年 11月18 日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと その人らしさを 大切に の理念を基に、一人一人に合わせたケアを行い、ゆっくりと安心して毎日を過ごせる様環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは理念である「ゆったりとその人らしさを大切に」をもとに、入居者が望むこと・求めていることを第一に考え、入居者本位に検討し支援している。地域との関係性は良好で、年2回の地域の道路清掃にホーム職員が参加し顔馴染みの関係を築くほか、ホームの事情を考慮した地域行事の日程調整が行われるなど地域との繋がりは強いものがある。昨年度は地震想定避難訓練を実施し、避難経路に沿って協力施設への避難を行っており、実際に避難してみたことで道路状況や移動距離、入居者が車両に乗り込む時間を含む所要時間などを把握でき、入居者へ不安を与えない避難誘導を行うことが重要であるとの再認識に繋がっている。季節の行事ではサラダ巻きやちらし寿司など入居者と一緒に調理し楽しい食事となるよう支援するほか、買物や外食、馴染みの美容室など入居者の希望に応じて全体や個別に対応し、入居者の喜びへと繋げている。できる限り自宅での生活スタイルが継続できるように本人の希望を聞きながら支援する姿に、入居者本位の温かで家庭的なホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム福田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、職員全員が入居者の“その人らしさ”を忘れずに業務にあたる様、個々を尊重したケアの徹底に努めている。	ホーム理念である「ゆったりとその人らしさを大切に」をもとに、全ての職員が職員会議や日々の業務の中で支援方法を振り返り、入居者本位に検討している。ホームでは入居者一人ひとりの希望に沿って、就寝や起床・食事時間など自宅での生活スタイル継続に向け支援に努めている。また、入居者の生活歴をもとに行事での役割などを検討し力が発揮できるよう支援することで、本来の自分を思い出す機会に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は、夜間や早朝が多く入居者の参加は、なかなかできていないが、ホームでの行事には、地域の方々へ声を掛けさせてもらっている。	自治会の会合時にホームの実情を伝えることで、地域のホームへの理解を深めている。地域住民から自治会行事のお知らせがあるほか、開催日程をホームの都合に合わせてもらえるなど地域との繋がりは強いものがある。また、年2回の地域の道路清掃には職員が参加し顔馴染みの関係を築くほか、ホームが地域の避難所として認識されており、地域住民の安心に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に方との会話の中で、認知症やその他介護についての悩みや相談があった場合は、いままでの知識を生かし、助言をしたり、事業所として出来る事を考え力になれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や活動報告を主に行っている。出席者からの意見や質問には、次の開催時に検討した結果を報告している。ホーム内で開催しているため、ホーム内の様子が見える様になっている。	運営推進会議には家族・行政・知見者の参加があり、活発な意見交換の場となっている。会議ではホームでの新型コロナウイルス感染症対策の現状報告や行政・他福祉施設・医療機関の感染対策について情報共有・意見交換し、現状に即したホーム対応を決定することで入居者の安全確保に努めている。会議内容は毎月のホーム利用料金支払いの際に全家族へ口頭で説明し、ホームへの理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方にも出席して頂いており、わからない事や疑問に思った事は、相談にのってもらっている。	管理者は運営推進会議の際や市の担当窓口を訪れた際、行政担当者にホームの実情やケアサービスの取り組みについて伝えており、ホームへの理解を深めている。行政担当者とは顔馴染みで相談しやすい関係性にあり、相談にすぐに対応してもらえるなど協力関係を築いている。市主催の講演会や研修会開催時にはお知らせがあり、職員の学びの機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束ゼロ委員会を設置しており、会議の際には、職員全員で日頃のケアの中に身体拘束にあたるものはないかを考え、日々のケアに生かしている。	ホームでは2か月毎に「身体拘束ゼロ委員会」を開催し、職員同士で日頃のケアの中で身体拘束をしていないか、拘束に繋がるものがないか、スピーチロック(言葉による拘束)を行っていないかを確認し、入居者への対応について話し合っている。また、現状に即したホーム目標を設定し、朝礼で意識付けを図ることで身体拘束をしないケアに努めている。令和2年9月には「認知症の理解について」のホーム内研修会を開催し知識を深めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、その内容を他の職員に周知したうえで、委員会を開催、月間目標を決め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し、必要な場合は、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと説明を行い理解を得られても、家族の意向が変化する場合がある為、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状では、意見や要望はないが、意見箱を設置し何かあれば記入してもらおう様に声かけしている。	職員は面会時や電話連絡の際に入居者の現状を伝えるとともに、以前の様子や入居前にどのようなケアを行っていたのか聞くことで、家族が要望を言いやすいよう配慮している。芋類やリンゴ、バナナの摂取による排便コントロールを行っていたという家族からの意見をもとに食事療法で対応するなど、入居者個々に応じた支援に努めている。入居者や家族からの要望は連絡ノートで共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションをとり、意見や提案などをしやすい環境にし、会議や朝礼の時等意見を聞き出すようにしている。	職員の意見や提案について、管理者は2か月毎の職員会議を通じて聞くよう努めており、職員からの意見は管理者、代表まで通り、透明性を図ることができている。現在、コロナ禍により外出制限せざるを得ないが、ホーム内での忘年会や新年会、鍋やバイキングの開催など、職員のアイデアを運営に取り入れることで入居者の喜びに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も職員と同様のシフトに入り、職員の勤務状況や職場環境を把握し、会議や個別に話し合いを行い各自のやりがいや向上心につながる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の参加を呼びかけ、多くの職員が参加できるような体制を作っている。職員個人個人の得意分野や勉強したい事を把握し能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し、他の事業所との交流を持てるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査時に本人の状況把握を行い、意見や要望、不安な事などを聞き出せる様に努力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を理解し、入居者の状況や家族の意向を相談時や訪問調査時に聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、当ホームの利用だけではなく他の事業所やサービスの利用も頭に置き対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が第二の家族であるという考えを持ち、入居者に寄り添い笑いあって和やかに生活できる様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係を理解し、ホームで行われる行事等への参加を声かけし、一緒に過ごせる機会を設けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人一人の今までの生活を出来るだけ把握し、面会や外出の機会を絶やさない様に努めている。	ホームでは入居者の家族や友人が訪問した際には茶を提供し、居室で本人とゆっくり過ごせるよう支援している。家族との外出時には食事形態やトロミ剤の準備、トロミ茶の作り方の指導、排便の調整、車椅子の貸し出しなど外出が楽しいものとなるよう支援している。また、個人の携帯電話使用の支援や本人希望時に家族へ電話を繋ぐなど関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ空間で皆一緒に過ごす時間(体操など)を設け、入居者同士が顔なじみにられるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、必要に応じ相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の暮らし方の希望や思いを日常会話などから把握する様に努めている。	入居時に家族・本人と話し合い、希望に沿った生活ができるよう努めている。職員は日々の会話の中から本人の悩みや要望を聞き、その人らしさを大切に考え入居者本位に検討している。手芸が趣味の方には本人の希望を聞いて手芸用品を購入するなど趣味継続の支援に努めている。入居者の思いや意向は「生活記録」や「連絡ノート」に記入することで職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査の際に家族から話を聞き、入居者との会話でも情報を得ている。また、記録に残し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々入居者一人一人の状態や行動などを観察し、小さな事まで見逃さない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と共に目標設定を行い、家族に説明、同意を行い今後の希望を聞き出すように努めている。	ホームでは家族・本人・計画作成担当者・協力薬局の薬剤師参加によるサービス担当者会議を開催し、家族面会時に聞き取った意向を反映した現状に即したケアプランとなるよう努めている。職員は毎日モニタリング表で支援内容を確認しており、ケアプランの実施状況について担当職員が毎月評価及び考察を行っている。支援内容の変更・追加については計画作成担当者と話し合いプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の状態を日々よく観察し、小さな変化も記録に残すようにし、職員間で共有する様にしている。一カ月ごとに各入居者の月のまとめを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時の宿泊などその時に生じるニーズに出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署や消防署から理解と協力を得ている。ホームの近隣の方とも顔なじみの関係を築けており、協力を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を利用して、そのかかりつけ医と報告・連絡・相談を行い心身の変化や、異常時にも適切な医療を受けられるようにしている。	ホームでは入居前のかかりつけ医を受診できるよう支援しており、体調不良時の対応について入居者一人ひとりのかかりつけ医と事前に相談し、必要に応じて往診や受診を行うなど早期治療に繋げている。受診する際には個人記録、疾患に応じて体重集計表・血圧手帳を持参し、医師へ詳細な状態報告を行うことで正確な診療に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しており常に連絡や相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と情報交換をし、早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、入居者本人、家族とも話し合い共有すると共に、急変や緊急時の対応を近隣にも説明しその際の協力について了承いただいている。	家族より看取りの希望があった際には医師・家族・ホームで話し合い、本人・家族の意向に沿えるよう支援している。入居時にホームが対応し得る最大のケアについて家族へ説明し理解を得ており、現在、在宅酸素に対応可能である。また、本人の状態に応じてその都度終末期の支援について家族の意向を確認している。令和2年1月に「看取りについて」のホーム内研修を行い、職員の学びの機会とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会にて繰り返し勉強しており、全職員が実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練や通報訓練を行い、入居者・職員共に避難の方法を確認している。消防署や消防設備会社にも立ち会ってもらい、助言いただいている。	昨年度は地震を想定した訓練を実施し、避難経路に沿った協力施設への避難を行った。実際に避難してみたことで道路状況や移動距離、入居者が車両に乗車する時間を含む所要時間などを把握でき、入居者へ不安を与えない避難誘導を行うことが重要であることを再認識することができた。入居者情報の持ち出しファイルはリュックサックに入れていつでも持ち出せる場所に保管し、通報した職員がそれを持って避難するなど役割分担に沿った行動ができている。	ホームと地域との関係は良好であるため、避難訓練等への地域住民の参加を促進するなど、入居者の更なる安全確保に繋がるよう有事における地域との協力体制構築に向けた取り組みに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人を理解し一人一人の人格を尊重した支援に取り組んでいる。入居者への姿勢や声かけは職員間でも注意しあいながら対応している。	ホームでは職員会議で職員の接遇面に関して自己評価を行うとともに、朝礼時にも入居者一人ひとりを尊重した支援ができていないかを確認し、振り返りの機会としている。不適切な言葉掛けがあった際にはその都度職員同士で注意し合い改善に努めている。排泄失敗時にはさりげない誘導を行い、入居者の自尊心を損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側が決めたことを押し付ける事のないよう、本人にわかりやすい言葉で本人が決めることができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の主な流れはあるが、体調や状況に応じて入居者個人個人のペースで過ごしてもらえよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい洋服を着てもらい、好みの髪形や希望者はカラーリングも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きやもやしの根切りなど、準備や後片付けを可能な限り手伝ってもらっている。食事の際もスタッフも同じテーブルで食事をし、楽しい食事を心がけている。	ホームでは栄養士資格を有する職員が献立を立て、栄養バランスの取れた食事を提供している。入居者の誕生日や正月・季節の行事の際にはサラダ巻きやちらし寿司などを入居者の目の前で調理し、入居者にも手伝ってもらいなど食事が楽しいものとなるよう努めている。また、食事摂取状況の確認及び本人の希望に合わせた食事形態の変更を行い、安全に食せるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量や水分量は常に把握し、栄養士を中心に栄養管理に努めている。食事形態も個人個人に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者皆に口腔ケアを働きかけ、自分では不十分な方は介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し必要な方には声かけやトイレ誘導を行っている。日中と夜間やその日の状態によって、下着やパットの使い分けも行っている。	職員は時間毎の排泄誘導や入居者の動きを見て尿意があると察し誘導することで、トイレでの排泄に繋げている。また、排泄間隔や尿量などから布パンツ・オムツ使用を検討するほか、時間帯によってどのように使い分けるのかなど職員間で話し合い常に見直しを行うことで不必要なオムツ使用とならないよう努め、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では栄養士指示のもと便通に良い野菜などを多く取り入れ、水分もなるべく摂取してもらっている。運動も毎日体操の時間を設けたり、個々での訓練も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の要望を取り入れながら、ゆず風呂や菖蒲湯なども楽しんでもらっている。	浴室には手すりやシャワーチェアを準備し、冷暖房機で浴室と脱衣所の温度差を調整するなど、入居者が安全に入浴できるよう配慮している。入居者より「温泉に入りたい」との希望があった際には、温泉の素の入浴剤を準備し温泉気分を味わってもらおうなど楽しく入浴できるよう支援している。入浴中は身体にタオルを掛けるなど入居者の羞恥心にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けており、休みたい方は、休まれている。昼夜逆転しないよう考慮しており、日中の活動量をそれなりに維持し、夜にはゆっくり休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の説明書は個人ファイルに綴じ、スタッフ皆が確認できるようにしている。通院されたら通院記録に記載し、薬の処方変更があった場合は、スタッフ全員に情報伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の今までの生活や趣味、性格なども把握し、その人にあつた役割、楽しみを尊重し日々を楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状態や希望に応じ、出来る限り戸外へ行けるように努めている。個人の意見を聞きながら一緒に買い物に行ったり、出来る限り行きたい所へ行けるよう支援している。	天気の良い日には入居者と職員でホーム周辺を散歩し、季節の花や畑の野菜を眺めることで気分転換を図っている。また、受診の帰りに公園やつつじ見学などのドライブを行い入居者の楽しみに繋げている。外出は入居者の希望を聞き、買物や外食、馴染みの美容室など希望に応じて全体や個別で対応しており、入居者の喜びとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為高額な金額は所持して頂かない様にしている。お小遣い程度の金額は自由に所持されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感や混乱を招かない様配慮している。季節に応じた飾りや写真などを飾り、心地よい空間を目指している。	リビングの大きな窓からは明るい日差しが差し込み、キッチンで調理する職員の姿から家庭的な雰囲気が窺える。共用空間であるリビングにはソファやクッションを配置し入居者が居心地良く過ごせるよう配慮するほか、感染予防対策として定期的な換気や室温調整、オゾン発生器を設置することで体調管理にも努めている。また、防火カーテン・スプリンクラーを設置し、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下の椅子など自由に過ごしていただける場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者よ家族と相談し今まで使っていた家具や写真等部屋に置いてもらい、居心地よく生活できる様環境作りを行っている。	居室にはテレビ・ソファ・椅子・仏壇・神棚・ダンス・衣類ハンガー・家族写真といった馴染みの物を持ち込むことができ、入居者が居心地良く過ごせるよう支援している。室内にはトイレ・浴室・台所が備え付けであり、掃き出し窓からベランダに出ると洗濯物が干してあるなど家庭的な雰囲気がある。毎日掃除し清潔に保っており、芳香剤など好みの物を使用し快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレなどはわかりやすく表示し必要な場所には手すりの設置も行っている。		